

同窓会会報

熊本大学医学部保健学科 第18号



蘇った熊本城天守閣

目次	同窓会会長あいさつ.....	1
	保健学教育部長あいさつ.....	2
	在校生の寄稿.....	3
	遺伝カウンセリングコース（博士前期課程）の新設について...	4
	同窓会総会議事録.....	5
	各専攻からの講演.....	5
	安田セツ子奨学助成基金運用のご報告	7
	同窓会から在校生（保健学科4年生）への生活費支援について...	8
	熊本大学卒業生表彰.....	8
	国家試験合格状況.....	8
	令和3年度卒業生の進路状況等について.....	9
	保健学科教員紹介.....	9
	同窓会会則・細則.....	10
	同窓会役員.....	11

2023年度保健学科同窓会総会、 特別講演、懇親会のご案内

日時：2023年7月1日（土）（予定）
14時00分より

場所：熊本大学医学部保健学科

変更の可能性もあるためURLをご覧ください。

熊本大学医学部保健学科同窓会
<http://hoken.kuma-u.jp/>

毎年7月第1土曜日に予定をしています。

後輩の教育研究支援にお力添えください。

保健学科・保健学教育部では、教育・研究の発展のために皆様のご支援を必要としています。別冊子「熊本大学基金」払込取扱票の中段にある寄附目的の「個別事業を特定する」にチェックを入れ、カッコ内に（医学部保健学科教育研究支援事業）とご記入いただき、ご寄附を賜りますようお願い申し上げます。

ご 挨拶

同窓会会長 春 田 昭 一

(済生会熊本病院／医療技術短期大学部衛生技術学科 5期)

平素より医学部保健学科同窓会へのご理解とご支援をいただき誠にありがとうございます。

まず、これまでに経験したことのない規模の大型台風により被害を受けられた方におきましては、心よりお見舞い申し上げます。

2020年1月に端を発した新型コロナ肺炎のパンデミックにより同年の同窓会総会は中止、そして昨年も終息の兆しが見えないまま2年連続の同窓会総会中止の事態を招いておりました。今年も新型コロナ肺炎による感染リスクを回避できたわけではありませんが、同窓会総会を3年連続で開催出来ない事態は避けたいとの役員一同の思いから、今年はオンライン形式による開催とさせて頂くことになりました。オンライン総会の案内は同窓会ホームページ (<http://hoken.kuma-u.jp/>) への掲載とクチコミによる案内でしたが、43名の方に参加いただきました。周知不足もありましたが、そのような状況の中、ご参加いただいた方、ありがとうございます。

同窓会総会では、例年、総会審議のほか、特別講演と各専攻科からの卒業生あるいは在校生による企画講演、その後の懇親会を楽しみにしていた方もいらっしゃると思いますが、今年は、特別講演と懇親会を中止としました。会議室をベースとしたオンライン総会の後に看護学専攻、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻の先生方から日頃の研究成果の紹介をしていただきましたが、先生方の日頃の努力に感銘するばかりです。そして、近い将来、先生方の研究成果が医療現場で活用される事が楽しみであります。

さて、本同窓会総会でも毎年、素晴らしい特別講演、企画講演をしていただいておりますが、やはり、遠方の方におかれましては参加しづらいこともあったと思います。現地開催と同時にオンライン配信のハイブリッド総会も今後の総会のあり方として検討したいと思います。できるだけ多くの方に現地参加で直にコミュニケーションを取ることで絆を深めていただきたいのですが、遠方の方にも参加しやすい総会を目指したいと思います。そして、同窓会の役割としての縦（卒業生と保健学科、在校生）と横（同窓生、施設）のつながりを大切にしたいと考えます。保健学科の情報発信も同窓会の役割の一つであり、会報だけではなくオンライン総会もその役割を担えればと思います。今後の総会の情報は、文末のURL及びQRコードからご確認ください。

今年の同窓会会報の表紙写真は2021年4月に復旧開園した熊本城天守閣としました。自慢の石垣の完全復旧にはまだまだ時間がかかりますが、天守閣からは熊本市内も一望でき、天守閣内には築城から復興までの熊本城の歴史がご覧になれます。総会が現地開催の際には、県外の方も、是非、ご覧になってはいかがでしょうか。来年こそは、現地開催できることを楽しみにしております。

新型コロナとの戦いからもうすぐ4年になり、新型コロナに対する考え方、危機感が変わり、制限緩和の動きもあります。WHOも「終息が視野に入った」との見解を示し、一方で気を緩めてはならないと付け加えています。

卒業生の皆さんにおかれましては、健康に留意されご自愛くださいますようお願い申し上げます。



<http://hoken.kuma-u.jp/>

ご挨拶

保健学科長・保健学教育部長 田代浩徳

熊本大学医学部保健学科同窓会会員の皆様には、平素より保健学科・保健学教育部へのご支援、ご協力を賜り、深く感謝いたしております。2019年末から始まった新型コロナウイルスSARS-CoV-2感染症(COVID-19)は未だ収束はしていないものの、ウィズコロナ時代として、様々な対策を施しながら、社会はコロナ以前の日常を取り戻そうとしております。世界中に拡大したこの新型コロナSARS-CoV-2の前型となるコロナウイルスSARS-CoVは、20年前の2002年11月に中国で非定型肺炎を発生させ、2003年にこの疾患が重症急性呼吸器症候群(SARS: severe acute respiratory syndrome)として命名されたことにより、このウイルス名となっています。保健学科は、SARSが世界を震撼させた2003年と時を同じくして設置されています。SARSと対峙する宿命を担っているためか、今年の3月に、文部科学省のプログラム「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」メニュー2Bに採択されました。保健学教育部に昨年設置された生体情報研究センターを中心に、当面続くであろうウィズコロナ(SARS-CoV-2)時代に加え、第3のSARS-CoVや新型インフルエンザなど、さらなる新興感染症の到来が確実視されている中、本学はもとより地域における医療人材養成に関わる教育を安全安心に遂行していくための地域拠点として機能していくこととなります。

さて、いよいよ来年は保健学科として設立20周年を迎えます。ABC棟は前身の熊本大学医療技術短期大学時代に建てられた校舎で、熊本大学内で最も古い建造物の一つとなっています。保健学科が、20年を節目として、新たに飛躍するためにも、老朽化したABC棟の全面的な改修計画に取り組んでいるところです。設備整備に関する概算要求には制約があり、そのためにも、寄付金による自己資金の獲得が必要です。熊本大学で創設されている『熊本大学基金』(<https://www.kumamoto-u.ac.jp/kikin>)の中に保健学科の教育・研究助成、教育・研究施設の整備を目的とした「医学部保健学科教育研究支援事業」があります。保健学科・保健学教育部で学ぶ学生の学習環境の充実を図るためにも、多くの皆様からの温かいご寄付を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。なお、ご寄付いただく際には、事業名を「医学部保健学科教育研究支援事業」とご指定下さい。

最後になりましたが、熊本大学医学部保健学科同窓会の発展と同窓生の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたします。

在校生の寄稿

大学生活を振り返って

看護学専攻4年 ただみずき 多田水葵

4年間の大学生活を振り返ってみるとあっという間に感じますが、学業や部活動、アルバイト、さまざまな人との出会いや経験ができ、とても充実していました。しかし、大学生活において新型コロナウイルスの存在は大きかったと感じています。

特に2年次は新型コロナウイルスの影響により、対面の授業からオンライン授業に切り替わり一人で学習する場面が増え、部活動やアルバイトはほとんど出来ず、孤独や不安な日々を過ごしました。病院実習は学内実習となり、医療の現場で学びの機会が減ったことで、将来働くことへの不安が募りました。少しでも不安を解消するため、熊本大学病院で始まった学生の看護補助者のアルバイトに応募しました。アルバイトを通して、実習では緊張して気づけなかった病棟の雰囲気や看護師と患者さんの関わりを知ることができ、また、私自身も病棟のメンバーの一員として協働し、様々な患者さんと関わる中からも多くの学びを得ることが出来ました。このような看護師になりたいと思うような看護師にも出会え、自分自身の理想となる看護師像を具体的にイメージすることができ、社会人になることへの不安が解消され、前向きに捉えられるようになりました。

大学4年次では感染対策を行いながらも少しずつコロナ禍前の授業形態や部活動に戻り、コロナ禍の辛い環境を過ごしてきたからこそ、人との繋がりや当たり前を感じていた日常、実習ができることの有難さを実感しています。私はコロナ禍の大学生活を通して、制限された環境であっても自分の考え方や行動次第によって新たな学びや経験を得られることを学び、貴重な経験であったと感じています。また、コロナ禍の不安な中でも頑張ってきたのは、同じ環境を過ごしてきた友人や親身になってくださる先生方の存在であると感じ、とても感謝しています。

今後も周囲の支えてくれる存在があることに感謝し、これまでの学びや経験を活かして、おかれた環境下で向上心を持ち自己研鑽を重ね、自己の能力を成長させていきたいと思っています。

卒業をむかえて

検査技術科学専攻4年 うえがまあやか 上釜綾夏

大学4年間は長いようであっという間でした。日々学業や部活動、アルバイトなど様々なことに力を入れ取り組み、多くのことを学びました。終わりの見えない課題やテスト勉強に一生懸命で夢に描いた大学生活とはかけ離れてはいましたが、今思えば臨床検査技師になるにあたって必要不可欠なものであったと言えます。そしてアルバイトを通して社会に出ること、沢山の方々と出会い、

幅広い視野を持てるようになりました。両立するのは中々難しかったのですが、妥協せずに4年間辞めずに続けてきたことが何より力になっていると感じています。

新型コロナウイルスが猛威を振るい、私たちは2年次から遠隔授業となりました。自由に外出もできなくなり、不安の中で生活を余儀なくされてきました。その中で学んだ知識をもとに2ヶ月間臨地実習へ臨みました。実際に臨床検査技師の方を目にし、これまで授業で学んだことをただただ暗記し、頭に詰め込んでいたことを後悔する毎日でした。完全に理解しきれていなかったんだと身に染みて思う一方で、それでもこれまで学んできたことが少しずつ結びつくたびに友達同士で感動し、机上学習では補えない患者さんとの接し方や検査手技などを習得することが出来ました。

私は大学卒業後、大学院に進学し、さらに専門知識や技術を深め研究に尽力していきたいです。また、研究において得られた分析結果から事実を導き出すために広い視野での思考力や洞察力、判断力を身に付けていきたいと考えています。最後に、大学生活で関わった方々には本当に感謝しています。臨地実習を共に切磋琢磨し過ごしたクラスメイトや、充実した環境を作ってくれた部活動の仲間、検査専攻でお世話になった先生方や、臨地実習という貴重な機会を与えてくださった臨床検査技師の方々に感謝し、これからの学びを深めていきたいと思えます。

大学生活を振り返って

放射線技術科学専攻4年 おおつか そら 大塚碧空

大学生活を振り返ると、大学の講義やアルバイト、一人暮らしなど毎日が新鮮でとても充実していたように感じます。また、そういった経験の中で様々な出会いもあり、多種多様な価値観や考え方に触れることで、自分の知見を広げることができ、自分自身とても成長できたのではないかと思います。

思い返すと、入学当時は高校生のときとは異なる生活習慣に慣れながら、アルバイトと両立することに必死だったのを覚えています。新しい環境に慣れるのが苦手、初めはなかなか大学での勉強方法の確立ができず苦労しました。けれども、新型コロナウイルス感染拡大で一人の時間が増え勉強時間が増えたことや、大学で出会った友人と教え合いながら勉強することで乗り越えることができました。この経験から自分に合った勉強方法を確立でき、大学3年の時には第一種放射線取扱主任者試験に合格することができました。

また、特に自分の大学生活の中で印象深いのは、大学4年に経験した臨床実習です。初めはかなり大変なイメージがありましたが、今まで座学で学んだことと臨床での

知識の結び付けに日々夢中で、気がつけば10週間があったという間に過ぎていてとても充実したものになりました。大学病院だけでなく、総合病院、整形外科病院や健診センターなどでも実習することができました。病院ごとの得意分野、検査や治療で意識している部分や接遇が異なり、これから技師としてどの病院でどのようなことに力を入れていきたいのか考えるきっかけになりました。

この4年間でお世話になった先生方、臨床実習でお会いした診療放射線技師の方々、友人に心より感謝いたします。大学卒業後は、医療人として働いていく中で高い撮影技術と専門知識を習得するだけでなく、患者様一人一人に適した検査や治療を提供し、職員や患者様に信頼されるような診療放射線技師になれるよう精進していきます。

大学院生活について

保健学教育部専攻放射線技術科学コース
博士前期課程2年 ほあしたつや 帆足達也

近年、人工知能と医療を組み合わせた研究が盛んに行われ、臨床機器にその技術が多く用いられています。私は、様々な可能性を秘めた人工知能に興味を持っており、人工知能の臨床応用技術を十分に活かすことができる研究分野で医療貢献できる人材になりたいと考え、その基盤を作るため大学院進学の道を選びました。

入学当初は、外部からの入学ということもあり、論文を読むことに精一杯で、一日が終わってしまうことが多々

ありました。しかし、日々積み重ねるうちに論文を読みながら研究をする生活に変わっていき、仲間とも連携を取れるようになったことで、大学院生活に馴染むことができました。研究内容は、人工知能を用いて医療画像の補正を行うもので、患者様への身体的・精神的負担を軽減できる利点が生まれます。患者様の負担を少なくかつ十分な診断画像を提供するという私の目標の技師像と重なることもあり、必ず成果を挙げるという高いモチベーションで研究に臨みました。研究を本格的に始めた頃は、行き詰まることが多く、自分自身のできることの少なさに辛い気持ちになることがあり、悩んだ時期がありました。先生方や先輩方、同期の仲間と意見交換を行いながら問題の解決策を探し、一つ一つ乗り越えることで研究を進めていきました。意見交換により客観的に問題を捉えることができるため、人とコミュニケーションをとることは、研究分野において重要なプロセスであり、臨床にもつながる重要な学びだったと実感しました。

大学院生活を振り返ってみると、大きな壁が多くあったように感じます。仲間という存在の重要性を改めて感じ、また客観的な視点を磨くことができ、自身の成長に大きくつなげることができた有意義な時間でした。このような貴重な経験ができ、先生方やそばで支えてくれた仲間深く感謝しています。この大学院で身につけたことを、臨床と研究の面から患者様に貢献できるよう、これからも日々精進していきたいと思えます。

遺伝カウンセリングコース(博士前期課程)の新設について

遺伝カウンセリングコース長 田代 浩徳

近年、医療は、遺伝/ゲノム学の急速な進歩と臨床応用の時代に入り、予防、早期発見のための検診、診断、治療、再発管理といったあらゆる局面で遺伝/ゲノム医療が活用されるようになってきています。一方で、遺伝ゲノム情報は、医学的課題だけでなく、倫理的・法的・社会的課題も含まれるようになり、十分な知識を有した専門家の関与が不可欠となってきています。こうした社会背景の中、「認定遺伝カウンセラー®」は、遺伝性疾患の患者様やご家族のみならず国民のニーズに応じた遺伝/ゲノム医療に関わる情報を提供するために、臨床遺伝専門医や診療科の医師と連携しながら遺伝に関する問題に悩むクライアント（患者様やご家族）を援助するとともにその権利を守る専門家として重要な責務を担うようになってきています。「認定遺伝カウンセラー®」は全国で300人を越えていますが、都市部に集中していて、福岡県以外九州には各県に1人という状況です。遺伝/ゲノム医療が急速に進んでいく中で、九州では「認定遺伝カウンセラー®」不足は深刻な状況となっており、カ

ウンセラ養成事業は僅々の課題となっていました。

本年4月、遺伝/ゲノム医療を推進している熊本大学病院の全面的な協力の下、本学保健学教育部に、全国では25番目の大学として、九州の中では、長崎大学について2つ目の大学として、大学院博士前期課程の中に「認定遺伝カウンセラー®」養成のための遺伝カウンセリングコースが新設されました。本学の特徴は、看護師（保健師・助産師を含む）・診療放射線技師・臨床検査技師を「認定遺伝カウンセラー®」に養成する多職種連携のコースとして既存の3コースに加え、4つ目のコースとして設置していることです。全国的にも看護学・放射線技術科学・検査技術科学の3専攻が合同で教育・研究を担う遺伝カウンセリングコースを有する大学院は珍しく、幅広い視点を持つ人材育成を目指すものとして注目されています。今後、遺伝カウンセリングに必要な遺伝/ゲノム医療についての質の高い教育と研究力を提供することで、現代医療に不可欠な「認定遺伝カウンセラー®」の輩出に寄与して参ります。

第17回熊本大学医学部保健学科同窓会総会議事録

日 時 令和4年7月2日(土) 10:00~11:30
 場 所 オンラインおよび保健学科大会議室
 出席者数 43名
 議 長 和田博文先生(済生会熊本病院)

<総会式次第>

開会の辞
 同窓会会長挨拶
 議長選出
 議事

1. 令和3年度事業及び会計に関する報告
 - ① 事業報告
 - ② 決算報告
 - ③ 監査報告
 2. 令和4年度事業計画(案)
 3. 令和4年度予算(案)
 4. 同窓会名簿の廃止について
- 閉会の辞

【議事要旨】

10時、羽手村副会長より開会が告げられ第17回同窓会総会が開会された。

最初に、春田会長が会を代表して挨拶を行った。その後、和田博文先生(済生会熊本病院)が総会議長に選出され、議事に従い議案の審議が行われた。

1. 令和3年度事業報告及び会計に関する報告

春田会長より同窓会会報第17号発行や在校生教育支援(実習を履修する4年生への生活費支援)、卒業生表彰等、1年間の事業が報告された。松本会計幹事より令和3年度の会計について決算状況が報告された。その後、橋田監事より令和4年3月31日に行った会計の監査結果について、適正であったとの報告が行われた。質疑応答では特に質問はなく、反対意見も無いことから、令和3年度事業報告、決算報告並びに会計監査報告は承認された。

2. 令和4年度事業計画(案)について
 春田会長より、令和4年度事業計画(案)について説明があった。

3. 令和4年度予算(案)について

令和4年度予算(案)について松本会計幹事より説明があった。質疑応答では特に質問はなく、反対意見もないことから令和4年度事業報告(案)、令和4年度会計予算(案)は承認された。

4. 同窓会名簿の廃止について

春田会長より、個人情報保護法の観点から同窓会の名簿の管理も厳しくなってきたこと、名簿に個人情報を掲載希望されない方が増えてきたこと、一部で同窓会名簿が名簿業者に流れて不正に使用されていることなどから、同窓会名簿の廃止を検討している旨説明があった。2020年および2021年同窓会会報で告知を行い、卒業生からも名簿廃止に賛同のご意見も頂戴していた。質疑応答では特に質問はなく、参加者からの反対意見もなく、同窓会名簿の廃止は承認された。

以上で、議案審議が全て終了し、議長は、降壇した。

最後に、羽手村副会長より閉会の挨拶があり、同窓会総会は、10時30分に終了した。次に看護学専攻 福重真美先生、放射線技術科学専攻 大野剛先生、検査技術科学専攻 梶原隆太郎先生から各専攻の近況およびご自身の研究に関する講演が行われた。

令和4年7月2日
 議事録署名人 田崎 雅義



各専攻からの講演

After コロナに向けた看護教育改革 —VR・MR技術の導入—

看護学分野 基盤看護学講座 福重 真美(保健学科看護学専攻2期)

COVID-19が世界中に拡大し、収束の目途が立たないまま約3年を迎えようとしている。実践の学問を学ぶ医療系学生にとって、コロナ禍の制限による影響は大きなものであった。大学での講義はオンラインやハイブリットへ切り替わり、保健医療現場での臨地実習は縮小や中

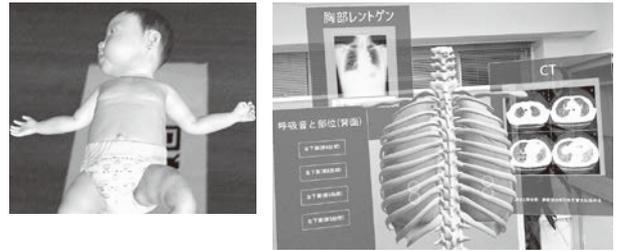
止を余儀なくされた。このようなCOVID-19の影響を受け、社会全体でDX(Digital Transformation)が急速に推進されてきた。看護基礎教育においても、DX技術活用の必要性が示され盛んに議論されるようになった。当講座では、多様化する看護職の役割を遂行していくため

の実践能力育成に向けて、前田ひとみ教授、松本智晴准教授を中心に、VR（Virtual Reality：仮想現実）とMR（Mixed Reality：複合現実）を活用した教材開発を行った。

VRは、ヘッドセットなど専用機器を装着し、3D映像を視聴したり、VR空間を自由に歩き回りモノに触れたり動かすといった没入体験ができる技術である。HTC社のVIVE Focus 3を用い、飛沫感染を可視化しながら口腔ケアや吸引の看護技術をトレーニングできる教材を作成した。両手で把持したコントローラーを動かし、仮想空間上でケアを行う。本来目に見えない汚染の範囲や程度を確認することで、感染予防の意識を向上させることができる。



MRは、現実の世界に仮想の世界を重ねて拡張する技術で、自由な角度から見たり、空間内に様々な情報を3Dで表示させることができる。Microsoft HoloLens 2を用い、新生児や小児、成人のフィジカルアセスメント教



材を作成した。新生児や小児のアセスメントでは、リアルな表情、四肢や胸郭の動きなども再現されており、反射や発達の確認、呼吸音・心音の聴診といった技術トレーニングを行うことができる。成人では、互いの身体に人体構造を投影させることで、心臓や肺などの臓器の動きと位置関係を再現し、現実世界と様々な情報を重ねて確認しながら技術トレーニングができる。

これらの教材は、イメージ化や対象理解、リアルな体験の機会をもたらすため、科目の到達目標や学生のレディネスに合わせて効果的に取り入れることで、既習の知識と技術の統合を図り、実践能力の育成が期待できる。一方で、対象とのインタラクティブ性が求められる看護においては、臨地でしか学び得ない事象もある。Afterコロナに向け、あらゆる場や教材、学習形態を効果的に組み合わせた教育設計を行い、改めて教育効果を検証していきたいと考えている。

各専攻からの講演

近況報告：放射線技術科学専攻

医療技術科学分野 医用放射線科学講座 大野 剛
(保健学科放射線技術科学専攻2期)

COVID-19の感染拡大により、放射線技術科学専攻でも大きな変化を迎えております。

大学の講義は、多くがオンライン形式で実施され、学生、教員共に対応に追われた。一方で、オンライン形式での講義の実施は、学生の反応がわからない、学生間でインターネット環境の差がある、学生間での交流が希薄となるといった問題点も数多く見られました。2022年10月現在では、多くの講義が対面形式で実施され、少しずつ感染拡大前の状況に戻りつつありますが、まだまだ予断を許さない状況です。しかし、このような厳しい状況下ではありますが、放射線技術科学専攻の志願者倍率は、約3倍程度を維持しています。また、学生は卒業後、7割程度が医療機関への就職し、3割程度が大学院へ進学しています。

また診療放射線技師においては、各医療関係職種の特長性の活用とタスク・シフト・シェアによる医師の負担軽減を目的に、診療放射線技師法改正が改正され、静脈路の確保等が新たな業務として拡大されています。本学でも、学生の教育において、これらの業務拡大に対応するため、教育カリキュラムが改定され、より多くの業務に対応可能な技師の輩出に尽力して参りたいと考えております。

個人の研究においては、磁気共鳴（Magnetic resonance: MR）装置と放射線治療装置を融合したMR

融合放射線治療装置を中心に研究を行って参りました。MR融合放射線治療装置は、放射線治療において、近年臨床応用されつつあり、腫瘍と正常組織のコントラストが高いMR画像を用いた高精度な放射線治療が可能です。一方、MR融合放射線治療装置では、強い磁場に放射線を照射するため、磁場の影響から放射線の分布が変化することが報告されています。私はコンピュータ・シミュレーションを用いて、磁場が人体内の放射線の分布や放射線検出器に与える影響を明らかにして参りました。また研究では、多くの大学院生の協力も頂き、博士

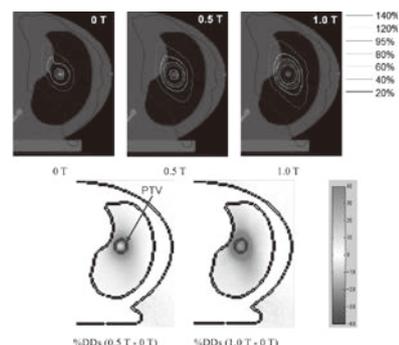


図 平行静磁場による肺がん患者の体内放射線分布の変化。
Phys Med. 2020 Dec;80:65-74. より引用

前期課程4名、博士後期課程1名の修了者を輩出することができました。

また、個人の教育活動では、オンライン会議システムを通じて、多施設の先生方と米国医学物理学学会や国際原子力機関のレポートの翻訳や日本放射線技師会のe-learningコンテンツの作成を行って参りました。

このように、COVID-19の感染拡大は、大学生活や個人の研究・教育活動においても大きな変化がありまし

た。しかしながら、COVID-19が与えた影響はネガティブなものばかりではなく、オンラインでの交流の拡大といったポジティブな面もあったと感じております。このようなCOVID-19がもたらしたポジティブな変化を許育や研究に活かし、保健学科の発展に寄与して参りたいと考えておりますので、今後とも熊本大学保健学科、大学院保健学教育部を厚く御支援頂ますよう、御願い申し上げます。

各専攻からの講演

アメ カ ぜ 米国ニモマケズ、COVID-19 ニモマケズ ～アメリカ留学記～

医療技術科学分野 生体情報解析学講座 梶原隆太郎（保健学科検査技術科学専攻2期）

2020年2月から2022年2月までの2年間、米国ニューヨーク（NY）州バッファローにありすロズウェルパーク癌センターに留学し、研究員として癌免疫療法の研究に取り組みました。留学先の癌センターは世界で最も古い総合癌治療センターで、癌の基礎研究だけでなく、免疫療法を含めて多くの臨床試験が行われています。

2020年の2月に留学を開始したときは、住居探しからSocial Security Numberの取得、運転免許証取得と自動車購入…などあらゆる初期セットアップがスムーズに進まず、さらに3月に入り、NY州では、武漢からの帰国者のCOVID-19感染が複数確認され、急速に感染数が増え始め、ご存知の通り、当時の世界最大のコロナ震源地となりました。不惑を過ぎ一念発起でこちらにやってきたはずが、ただでさえ言葉も通じない見知らぬ土地での生活に、COVID-19の生活制限が重なり、渡米したばかりなのに、どうやって理由をつけて日本に帰ろうかと考えてばかりいました（笑）。途方にくれること数え切れず、その度なかなか聞き取れない彼らの英語を何度となく聞き返し、これまたなかなか伝わらない私の英語を繰り返し浴びせ続ける毎日でした。能動的に伝えていかないと全く前に進まない状況の連続で、とにかく体当たりで進むという度胸が付きまして。文法などは気にせずとにかく喋る、しゃべる…。日本では「出川哲朗のはじめてのおつかい in アメリカ」を見て爆笑していた私でしたが、アメリカ人相手にあちこちの窓口で奮闘してい

る自分の姿は、「空母」を『スカイママ』と表現していた彼と重なりました。伝えたい！という私の『ガチでリアルな』必死さが彼らに伝わると、なんとか理解しようとしてくれる人もやはりいて、そうした人々には幾度も助けられました。

日本では、講義・実習、会議、事務作業などに時間を取られ、研究に没頭できる時間がなかなか取れない状況ですが、アメリカ留学中は研究にのみ集中でき、その結果に一喜一憂する毎日で、楽しみながら研究を進めることができました。小学生のころ、夏休みの自由研究のために夢中になって昆虫採取をして標本作りをしていたのを思い出します。私にとってこの留学は、ちょっと長いその夏休みのような感覚でした。こうした環境にいられたことが幸せであり、このような貴重な機会を与えてくださいました保健学科の諸先生方をはじめ、大学事務、同窓会の役員の方々に深く感謝いたします。



アメリカ海軍のスカイママにて

安田セツ子奨学助成基金運用のご報告

令和3年度の奨学助成の申請は9名の学生からありました。申請書類等を同窓会役員で審議した結果、7名の学生に奨学助成をさせていただきました。基金の原資をご寄附くださいました安田様ならびにご家族様へ厚く御礼を申し上げますとともに、同窓会では今後も引き続き有効な運用を検討してまいります。

この基金は「経済的に困っている学生さんの支援に使ってほしい」という安田セツ子様のご厚意を承り、設立されたものです。設立の経緯については熊本大学医学部保健学科同窓会ホームページよりご覧いただけます（同窓会会報第14号に掲載）。申請手続きに関しましては、保健学科内の掲示板に提示しております。

同窓会から在校生（保健学科4年生）への生活費支援について

保健学科の学生は病院等での実習が必修となっています。しかし、新型コロナウイルス感染防止対策のため、実習2週間前からアルバイトが禁止されており、生活が困窮している可能性があります。このような現状について同窓会役員会で検討し、保健学科4年生時に実習を履修する学生に対し、同窓会から一人につき5,000円的生活費を支援することを決定しました。令和4年7月から8月にかけて、147名の保健学科4年生（看護学専攻75名、放射線技術科学専攻39名、検査技術科学専攻33名）に渡すことができましたので、皆様にご報告させていただきます。

熊本大学卒業生表彰

佐竹 幸子様

(医学部附属衛生検査技師学校 昭和45年卒業)

受賞理由：大学教員として、長年にわたり検査医学に関する教育研究に従事し、学生の交換留学や感染管理のリーダーとなる人材育成に寄与した。CDC（アメリカ疾病予防管理センター）とWHO（世界保健機関）が主催する抗菌薬感受性検査の外部精度管理プログラムに参加するため、国際抗菌薬精度管理研究会を設立、またNPO法人EBIC（科学的根拠に基づいた感染管理）研究会を設立するなど、その功績は多大である。2018年にはEBIC研究会の活動により、第2回薬剤耐性（AMR）対策普及啓発活動表彰で、厚生労働大臣賞を受賞した。



国家試験合格状況

令和4年3月

試験種類	受験年度	本学新卒者			全国（含既卒者）		
		受験者数 （人）	合格者数 （人）	合格 率 （%）	受験者数 （人）	合格者数 （人）	合格率（%） （うち新卒者）
看護師	29	67	67	100.0	64,488	58,682	91.0 (96.3)
	30	70	69	98.6	63,603	56,767	89.3 (94.7)
	R元	68	67	98.5	65,569	58,514	89.2 (94.7)
	R2	68	68	100.0	66,124	59,769	90.4 (95.4)
	R3	68	68	100.0	65,025	59,344	91.3 (96.5)
保健師	29	20	20	100.0	8,191	6,666	81.4 (85.6)
	30	20	20	100.0	8,376	6,852	81.8 (88.1)
	R元	20	20	100.0	8,233	7,537	91.5 (96.3)
	R2	20	20	100.0	7,834	7,387	94.3 (97.4)
	R3	20	20	100.0	7,948	7,094	89.3 (93.0)
助産師	29	11	11	100.0	2,230	2,201	98.7 (99.4)
	30	10	10	100.0	2,105	2,096	99.6 (99.9)
	R元	9	9	100.0	2,105	2,093	99.4 (99.5)
	R2	13	13	100.0	2,108	2,100	99.6 (99.7)
	R3	8	8	100.0	2,089	2,077	99.4 (99.7)
診療放射線技師	29	34	31	91.2	2,971	2,237	75.3 (84.8)
	30	41	41	100.0	3,202	2,537	79.2 (89.4)
	R元	36	26	72.2	2,914	2,397	82.3 (92.2)
	R2	40	38	95.0	2,953	2,177	73.7 (82.8)
	R3	35	30	85.7	2,953	2,184	74.0 (83.0)
臨床検査技師	29	37	34	91.9	4,829	3,828	79.3 (90.5)
	30	39	36	92.3	4,817	3,620	75.2 (86.5)
	R元	40	33	82.5	4,854	3,472	71.5 (83.1)
	R2	39	34	87.2	5,115	4,101	80.2 (91.6)
	R3	37	35	94.6	4,948	3,729	75.4 (86.4)

令和3年度卒業生の進路状況等について

R 4. 9月現在

看護学専攻 (卒業生70名)		
(就職)		
熊本大学病院	熊本県	16
済生会熊本病院	熊本県	7
熊本県庁	熊本県	3
熊本市役所	熊本県	3
熊本医療センター	熊本県	1
熊本整形外科病院	熊本県	1
熊本中央病院	熊本県	1
福田病院	熊本県	1
熊本県総合保健センター	熊本県	1
荒尾市役所	熊本県	1
上天草市役所	熊本県	1
九州大学病院	福岡県	5
久留米大学病院	福岡県	1
福岡県庁	福岡県	1
福岡市役所	福岡県	1
九州医療センター	福岡県	1
白十字病院	福岡県	1
千鳥橋病院	福岡県	1
福岡山王病院	福岡県	1
百年橋リハビリテーション病院	福岡県	1
福岡青州会病院	福岡県	1
福岡中央病院	福岡県	1
糸島市役所	福岡県	1
大分大学医学部附属病院	大分県	3
長崎県庁	長崎県	2
長崎市役所	長崎県	1
雲仙市役所	長崎県	1
佐賀県庁	佐賀県	2
宮崎大学医学部附属病院	宮崎県	1
宮崎県庁	宮崎県	1
順天堂大学医学部附属順天堂医院	東京都	1
東邦大学医療センター大森病院	東京都	1
国立国際医療研究センター病院	東京都	1
順天堂大学医学部附属浦安病院	千葉県	1
天理よろづ相談所病院	奈良県	1
関西労災病院	兵庫県	1
就職小計		69
(進学)		
熊本大学養護教諭特別別科	熊本県	1
進学小計		1

放射線技術科学専攻 (卒業生35名)		
(就職)		
済生会熊本病院	熊本県	1
熊本県総合保健センター	熊本県	2
熊本市市民病院	熊本県	1
熊本総合病院	熊本県	1
熊本赤十字病院	熊本県	1
熊本市医師会ヘルスケアセンター	熊本県	1
高木病院	福岡県	2
福岡赤十字病院	福岡県	1
産業医科大学病院	福岡県	1
小倉記念病院	福岡県	1
国立病院機構九州グループ	福岡県	1
篠栗病院	福岡県	1
相良病院	鹿児島県	1
沖縄県病院事業局	沖縄県	2
南部徳洲会病院	沖縄県	1
国立がん研究センター中央病院	東京都	1
地域医療機能推進機構 (JCHO九州地区)	東京都	1
フクダ電子	東京都	1
名古屋市立大学病院	愛知県	1
兵庫医科大学病院	兵庫県	1
未定 (就職活動継続・資格試験受験準備等)		5
就職小計		28
(進学)		
熊本大学大学院保健学教育部	熊本県	7
進学小計		7

検査技術科学専攻 (卒業生37名)		
(就職)		
熊本大学病院	熊本県	2
済生会熊本病院	熊本県	4
熊本赤十字病院	熊本県	2
日本赤十字社熊本健康管理センター	熊本県	2
整形外科井上病院	熊本県	2
熊本市市民病院	熊本県	1
熊本中央病院	熊本県	1
地域医療推進機構九州ブロック	熊本県	1
トイメディカル	熊本県	1
産業医科大学病院	福岡県	1
北九州市立病院機構	福岡県	1
聖マリア病院	福岡県	1
福岡新水巻病院	福岡県	1
福岡山王病院	福岡県	1
高木病院	福岡県	1
二田哲博クリニック	福岡県	1
大分岡病院	大分県	1
島原病院	長崎県	1
佐賀県庁	佐賀県	1
宮崎市郡医師会病院	宮崎県	1
宮崎江南病院	宮崎県	1
鹿児島大学病院	鹿児島県	1
済生会川内病院	鹿児島県	1
武田総合病院	京都府	1
宇治徳洲会病院	京都府	1
松山城東病院	愛媛県	1
未定 (就職活動継続・資格試験受験準備等)		1
就職小計		34
(進学)		
熊本大学大学院保健学教育部	熊本県	3
進学小計		3



保健学科教員紹介

(令和4年10月現在)

◆看護学専攻

【基礎看護学講座】

教授：青石 恵子 前田ひとみ
 准教授：中村 五月 松本 智晴
 講師：永田まなみ
 助教：福重 真美 森枝紗季子

【看護実践開発講座】

教授：國府 浩子 三笥 里香
 准教授：柘中智恵子 坂梨 京子
 講師：城下 由衣
 助教：島田久仁子 樋口 有紀 福山 美季

【健康科学講座】

教授：大河内彩子 河野 宏明 田代 浩徳
 准教授：秋月 百合
 講師：那須 信
 助教：金森 弓枝 谷川 千春 山本麻起子
 吉田 佳代

【大学病院からの派遣教員】

臨床講師：森中 尚子

◆放射線技術科学専攻

【医用画像科学講座】

教授：北島 美香 白石 順二
 准教授：内山 良一 藤原 康博 米田 哲也
 助教：辻田 直子

【医用放射線科学講座】

教授：伊藤 茂樹 船間 芳憲 村上 龍次
 准教授：大野 剛 坂本 史

◆検査技術科学専攻

【構造機能解析学講座】

教授：大林 光念 柳沼 裕二 山本 雅大
 講師：伊藤 雅浩
 助教：橋本 弘司

【生体情報解析学講座】

教授：伊藤 隆史 大坪 和明 大森 久光
 准教授：田崎 雅義
 助教：梶原隆太郎 松尾 祐一 森 信子

熊本大学医学部保健学科同窓会会則・細則

熊本大学医学部保健学科同窓会会則

第1章 総則

- 第1条 本会は、熊本大学医学部保健学科同窓会（以下「本会」という。）と称する。
- 第2条 本会は、事務局を熊本市九品寺4丁目24番1号熊本大学医学部保健学科に置く。
- 第3条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、母校との連携を保ち、その教育の支援と発展に寄与することを目的とする。
- 第4条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
- 一 会員相互の親睦及び研修に必要な事項
 - 二 母校の教育の支援・発展に関する事項
 - 三 その他必要と認められる事項
- 第5条 本会は、必要に応じて各専攻等を単位とする分科会を置くことができる。
- 2 分科会の設置及び運営に関する事項は、理事会の承認を経て各分科会が定める。

第2章 会員

- 第6条 本会の会員は次のとおりとする。
- 一 正会員
 - イ 熊本大学医学部附属看護学校、熊本大学医学部附属助産婦学校、熊本大学医学部附属エックス線技師学校、熊本大学医学部附属診療放射線技師学校、熊本大学医学部附属衛生検査技師学校、熊本大学医学部附属臨床検査技師学校を卒業又は学籍した者
 - ロ 熊本大学医療技術短期大学部を卒業又は学籍した者、熊本大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻を修了又は学籍した者、熊本大学教育学部特別教員（看護）教員養成課程を卒業又は学籍した者
 - ハ 熊本大学医学部保健学科（以下「本学科」という）を卒業又は学籍した者並びに在学生
 - 二 熊本大学大学院保健学教育部（以下「大学院」という）を修了又は学籍した者および在学生
 - 二 特別会員
 - イ 本学科教員
 - ロ 本学科及び前項の学校の元教員
 - ハ 前項以外の者で理事会の承認を得た者

- 第7条 会員が死亡または会員たる資格を喪失したときは、退会したもののみとする。
- 第8条 会員が、本会の名誉を傷つけ、または本会の趣旨に反する行為をしたときは、総会において出席会員の4分の3以上の議決により、これを除名することができる。
- 第9条 正会員は、会費（終身）として1万円を本学科入学および大学院入学時に納入するものとする。ただし、退会または除名された会員が既に納入した会費、その他の拠出金は返還しないものとする。

第3章 役員等

- 第10条 本会に次の役員を置く。
- 一 会長 1名
 - 二 副会長 2名
 - 三 理事 12名
(看護6名、衛生3名、放射3名)とする。
 - 四 幹事 7名
 - 五 会計 2名
 - 六 監事 2名
- 第11条 役員は次の職務を行う。
- 一 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
 - 二 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代行する。
 - 三 理事は、会員の代表として本会の運営に当たる。
 - 四 幹事は、本会の実務に当たる。
 - 五 会計は、本会の会計事務に当たる。
 - 六 監事は、本会の会計を監査し、総会に報告する。
- 第12条 役員は、次により選出又は委嘱する。
- 一 会長は、総会において正会員の中から選出する。
 - 二 副会長は、会長が正会員の中から推薦し委嘱する。
 - 三 理事は、正会員の中から専攻毎に選出し会長が委嘱する。
 - 四 幹事は、会員の中から会長が委嘱する。

- 五 会計は、正会員の中から会長が委嘱する。
 - 六 監事は、理事会において正会員の中から推薦し、会長が委嘱する。
- 第13条 2 役員は、任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。補欠による役員は、前任者の残任期間とする。
- 3 役員は、任期が満了しても後任者が就任するまではその職務を行うものとする。

第4章 名誉会長及び顧問

- 第14条 本会に名誉会長を置き、保健学教育部長を推戴する。
- 第15条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、総会の議を経て会長が委嘱する。
- 2 顧問は、重要事項について会長の相談に応ずる。

第5章 会議

- 第16条 総会は、原則として毎年1回開催し、次の事項を審議決定する。
- 一 事業及び決算報告
 - 二 事業計画及び予算
 - 三 会則の制定及び改廃
 - 四 役員を選出
 - 五 顧問の推挙
 - 六 その他の必要と認める事項
- 2 会長は、総会を召集し、理事会の議を経て前項に定める事項を提案する。
- 第17条 会長は必要と認めるとき、臨時総会を開催することができる。
- 第18条 総会の議長は、出席会員の中から選出する。
- 第19条 総会は、日時、場所、付議すべき事項等を示して召集する。
- 第20条 総会に出席できない会員は、あらかじめ文書をもって意見を表示することができる。
- 第21条 総会の議事は出席会員の過半数で決し、可否同数のときは議長がこれを決する。
- 第22条 総会は、議事録を作成し、これを保存する。
- 第23条 理事会は、会長、副会長、理事及び幹事によって組織する。
- 第24条 理事会は、会長が必要と認めるとき、又は理事の5分の2以上の要求があったときに開催する。
- 第25条 理事会は、会長が召集し、議長は会長がこれにあたる。
- 第26条 理事会の議事は、出席者の過半数で決する。
- 第27条 理事会は必要に応じて委員会を置くことができる。

第6章 会計

- 第28条 本会の経理は、会費及び寄附金、その他の収入を持って充てる。
- 第29条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。

- 附 則 この会則は、平成16年4月1日から施行する。
- 附 則 この改正は、平成19年4月1日から施行する。
- 附 則 この改正は、平成20年4月1日から施行する。

熊本大学医学部保健学科同窓会会計細則

- 1 同窓会費は1万円とし、本学科入学および大学院入学時に一括納入することを原則とする。
- 2 本学科同窓会費は、同窓会運営費として使用する。運営費以外に使用する場合は、同窓会理事会の承認を必要とする。
- 3 旅費に関しては、旅費規程に則って支給する。
- 4 金融機関への振込手数料は、会員の負担とする。
- 5 金融機関に同窓会の口座を設け、会計が通帳・印鑑を管理する。
- 6 同窓会費の徴収は、入学時に行い、徴収後は速やかに同窓会費支払者名簿を作成する。
- 7 会計は、会計年度終了時に速やかに決算報告書を作成し、監査を受ける。
- 8 本細則の改正は、同窓会総会で行う。

- 附 則 この細則は、平成16年4月1日から施行する。
- 附 則 この改正は、平成20年4月1日から施行する。
- 附 則 この改正は、平成25年4月1日から施行する。

令和4年度熊本大学医学部保健学科同窓会役員

名誉会長：田代 浩徳（熊本大学大学院保健学教育部長・保健学科長）

会長：春田 昭一（済生会熊本病院）

副会長：羽手村昌宏（熊本大学病院）

溝上 幸洋（くまもと森都総合病院）

理事：

（看護）山本 治美（熊本大学病院）

田中紀美子（元九州看護福祉大学）

小菌真知子（元熊本保健科学大学言語聴覚学専攻）

片平 起句（医療法人社団愛育会福田病院）

宮里 邦子（元九州看護福祉大学）

福重 真美（熊本大学医学部保健学科）

（放射）荒木不次男（元熊本大学医学部保健学科）

有村 大喜（済生会熊本病院）

大野 剛（熊本大学医学部保健学科）

（検査）増永 純夫（元熊本中央病院）

片淵 達也（熊本大学病院）

幹事：

（看護）富永 圭亮（熊本大学病院）

島田久仁子（熊本大学医学部保健学科）

（放射）辻田 直子（熊本大学医学部保健学科）

（検査）田崎 雅義（熊本大学医学部保健学科）

松尾 祐一（熊本大学医学部保健学科）

高島 裕子（元熊本大学病院医療技術部）

会計：松本 佳代（熊本保健科学大学看護学科）

吉田 佳代（熊本大学医学部保健学科）

監事：清水 恵子（熊本保健科学大学看護学科）

橋田 昌弘（帝京大学福岡医療技術学部）

東京連合同窓会幹事：松下 洋一（株式会社バイオトクステック）

九州連合同窓会幹事：春田 昭一（済生会熊本病院）

松本 佳代（熊本保健科学大学看護学科）

編集後記

コロナ禍となり講義はオンラインが中心となったことで、大学から学生の姿もなくなり、閑散とした大学キャンパスとなっていました。一方、コロナ感染症が長期化することにより、新たな生活様式での日常生活も取り戻しつつあります。大学では、今年は感染防止対策を徹底した上で入学式が行われ、新入生は研鑽を誓いました。また、多くの講義が対面形式で行われ、校舎には学生の姿が戻りコロナ禍以前の様子を取り戻しつつあります。交流と出会いの場としての大学の役割が戻り、充実した学生生活を送ることができること

を願っております。

本年度の同窓会総会は、2年ぶりにオンラインでの開催となりました。次回こそは、現地での開催となり、多くの皆様にご臨席いただき、皆様の元気な笑顔にお目にかかれることを願っております。そして、今回の会報では、在校生の皆様、及び博士課程前期課程に新設された遺伝カウンセリングコースについての貴重なご寄稿を頂きました。安田様及びご家族をはじめ、ご寄稿くださいました方々、同窓会活動にご支援いただきました皆様方へ厚く御礼申し上げます。

◆ 看護職員募集

熊本大学病院看護部



熊本大学医学部保健学科同窓生の皆様へ
“私たちと一緒に働きましょう”

私たちの病院は、看護職員一人ひとりが専門職としての能力向上につながるキャリア開発支援と生き生き働き続けられる職場づくりを目指しています。

令和4年10月より、熊本県看護職キャリア支援事業が始まりました。人事交流や資格取得等、色んな事にチャレンジしてみませんか。



詳細はホームページをご覧ください。